

報道関係者各位

(本資料は米国で発表された報道資料の抄訳です)

2025 年 7 月 2 日
ボストン コンサルティング グループ

生成 AI を日常的に使う人の割合は 70%超の一方、 従業員の利用率は 51%にとどまる～BCG 調査

日本における日常的な利用率、AI エージェントの導入率はともに世界平均を下回る

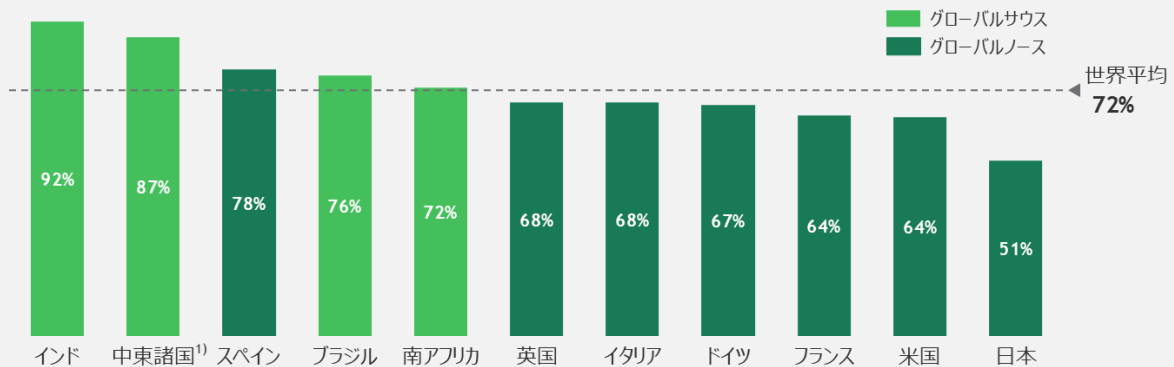
ボストン発、2025 年 6 月 26 日 —— 経営コンサルティングファームのボストン コンサルティング グループ(以下、BCG)は、職場における AI 活用に関する意識調査に基づくレポート「[AI at Work 2025: Momentum Builds, But Gaps Remain](#)」(以下、レポート)を発表しました。調査は日本を含む世界 11 の国・地域において、経営幹部から従業員までを含む 1 万 600 人以上を対象に行われました。BCG のデジタル領域に特化した専門家集団 BCG X が実施し、今年で 3 回目となります。

生成 AI の日常的な利用率は世界平均 72%、日本は 51%と低迷

調査によると、全回答者の 72%が日常的に AI を使用しており¹、世界全体として AI の導入は進展していることがわかりました。しかし職位別に見ると、一般従業員のうち日常的に AI を使用する人の割合は 51%にとどまり、昨年の 52%から横ばいの結果になっています。また、日常的に AI を使用する人の割合はインド(92%)、中東諸国(87%)などで高く、グローバルサウスの国々での利用率は引き続き高い水準にあります。対して、日本では 51%と大きく差がつかしました(図表 1)。

図表1 日常的にAIを使う人の割合は、世界平均で72%。
グローバルサウスで高水準の一方、日本は51%と低迷

週に数回以上AIを使うと答えた人の割合



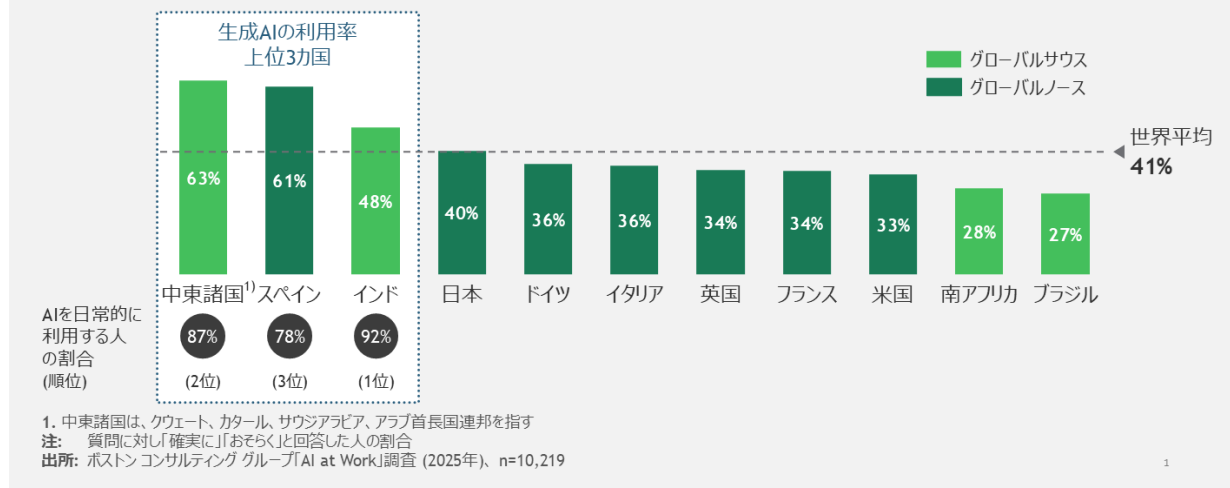
1. 中東諸国は、クウェート、カタール、サウジアラビア、アラブ首長国連邦を指す
出所: ボストン コンサルティング グループ「AI at Work」調査 (2025年)、n=10,635

¹ AI を週に数回以上、または毎日使用する場合を「日常的に使用する」と定義

一方、自動化による雇用への影響に対する懸念も大きく、全体で **41%** の回答者が「今後 **10** 年で自分の仕事がなくなる可能性がある」という不安を抱いていることが明らかになりました。特に利用率が上位の国ほど、この傾向は強くなっています(図表 2)。

図表2 AI利用率の高い国は失職への恐れも強い傾向がある

今後10年で自分の仕事が (確実に、またはおそらく) なくなると考えている人の割合



AI の活用を促進するにはトレーニングやツール、経営リーダーからの支援が重要

レポートでは、AI 活用の促進にあたり、重要な施策として以下の 3 つを挙げています。

- **十分なトレーニングの提供:** AI の使い方について「十分なトレーニングを受けた」と感じている回答者はわずか **36%** にとどまった。特に、対面式かつ助言を受けられるコーチング形式で **5** 時間以上のトレーニングを受けた人は、AI を日常的に活用する可能性がより高まる
- **適切な AI ツールの提供:** 回答者の半数以上 (**54%**) が「正式に許可されていなくても AI ツールを使う」とした(図表 3)。特に **Z** 世代²やミレニアル世代³は、会社の許可がなくても AI を利用しようとする可能性が高い。このように、従業員が無断で業務に AI ツールを使用する「シャドーAI」の問題は、企業にとってセキュリティリスクの増大を招く
- **経営リーダーの明確な支援:** 一般従業員のうち、「自社の経営層は AI の使用に関して十分な指針を示してくれている」と感じている人はわずか **25%** となった。一方で、経営リーダーが積極的に関与している組織では、AI の利用率も、AI の影響に対し前向きな従業員の割合も明らかに高い傾向がある

² 1997～2012 年生まれ

³ 1981～1996 年生まれ

図表3 「シャドーAI」を防ぐため、企業は適切なAIツールを提供する必要がある



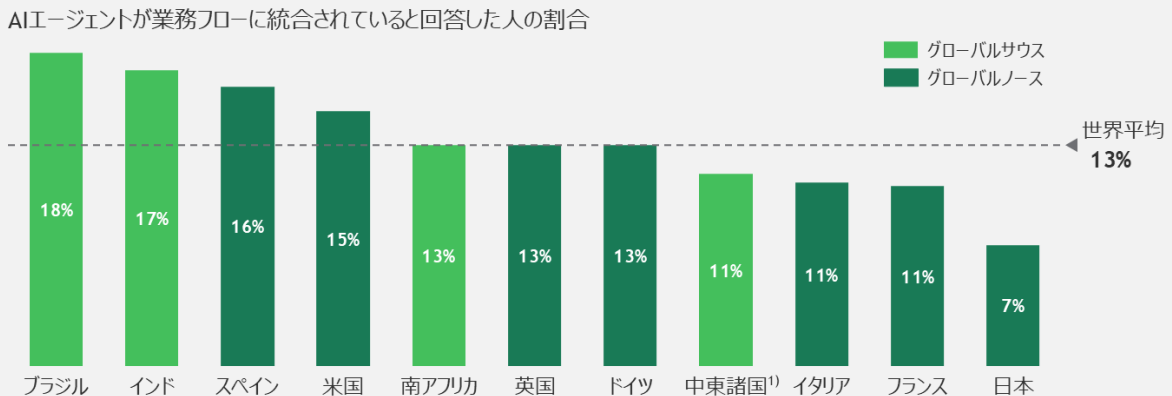
1. Z世代=1997~2012年生まれ、ミレニアル世代=1981~1996年生まれ (n₁=7,039)、2. その他の世代 (n₂=3,596)
 注: シャドーAIとは、組織の明示的な許可・承認・管理がないまま、AIツールやシステムを使用することを指す
 出所: ポストンコンサルティンググループ「AI at Work」調査 (2025年)、n=10,635

2

AI エージェントが今後の成功に不可欠との見方が強まる一方、日本での導入は出遅れ

調査によると、回答者の 4 分の 3 以上が AI エージェント(自律的なタスクマネジメントが可能なデジタルアシスタント)が今後の成功に不可欠だと考えています。しかし、現時点で AI エージェントが業務フローに統合されていると回答した人の割合は世界平均で 13%にとどまり、日本では 7%とさらに下回りました(図表 4)。また、その仕組みを理解していると答えた人も全体の 3 分の 1 となっています。

図表4 職場におけるAIエージェントの導入率



1. 中東諸国は、クウェート、カタール、サウジアラビア、アラブ首長国連邦を指す
 注: 各国のn(サンプル数)は調査の条件に基づく
 出所: ポストンコンサルティンググループ「AI at Work」調査 (2025年)、n=10,635

3

一方で、AI エージェントの仕組みについて理解している人ほど脅威を感じる割合は低くなり、AI エージェントを「競合」ではなく「協働するパートナー」として捉えていることも明らかになっています。

AI による本質的な変革へと踏み出そうとする経営リーダーに向け、レポートでは「AI 活用によって生まれた価値を可視化する」「人材投資を通じて業務フローを再設計し、AI の価値を最大限に引き出す」「AI エージェントについて A/B テストなど定量的な検証を徹底し、経験曲線を加速させる」といった要件を提示しています。

BCG Xで日本における生成 AIトピックのリーダーを務めるマネージング・ディレクター&パートナーの中川 正洋は次のように述べています。「日本企業においても積極的な AI 活用を進める姿勢は見られますが、グローバル企業がより速いスピードで活用を推進しており、徐々に差が開き始めています。また、生成 AI の活用環境を整備しても、実際の活用が進まず苦慮している企業も少なくありません。日本において AI 活用が進んでいる企業は、経営トップのサポートや後押しと、現場レベルでの成功事例の確立という両輪がうまく機能しています。世界的な動きも踏まえると、AI を日常的に活用するだけでなく、業務プロセスや顧客への提供価値を変革するような取り組みにいかにつなげられるかが鍵といえます」

■ 調査レポート

「[AI at Work 2025: Momentum Builds, But Gaps Remain](#)」

■ 日本における担当者

中川 正洋 マネージング・ディレクター & パートナー



日本における生成 AIトピックのリーダー。BCG X、BCG パブリックセクターグループ、およびテクノロジー&デジタルアドバンテッジグループのコアメンバー。
早稲田大学理工学部卒業。同大学大学院理工学研究科修了。グローバルコンサルティングファームなどを経て現在に至る。

■ ボストン コンサルティング グループ (BCG) について

BCG は、ビジネスや社会のリーダーとともに戦略課題の解決や成長機会の実現に取り組んでいます。BCG は 1963 年に戦略コンサルティングのパイオニアとして創設されました。今日私たちは、クライアントとの緊密な協働を通じてすべてのステークホルダーに利益をもたらすことをめざす変革アプローチにより、組織力の向上、持続的な競争優位性構築、社会への貢献を後押ししています。

BCG のグローバルで多様性に富むチームは、産業や経営トピックに関する深い専門知識と、現状を問い直し企業変革を促進するためのさまざまな洞察を基にクライアントを支援しています。最先端のマネジメントコンサルティング、テクノロジーとデザイン、デジタルベンチャーなどの機能によりソリューションを提供します。経営トップから現場に至るまで、BCG ならではの協働を通じ、組織に大きなインパクトを生み出すとともにより良き社会をつくるお手伝いをしています。

日本では、1966 年に世界第 2 の拠点として東京に、2003 年に名古屋、2020 年に大阪、京都、2022 年には福岡にオフィスを設立しました。

<https://www.bcg.com/ja-jp/>

■ BCG X(エックス)について

BCG X は、テクノロジーやデジタルを駆使したビジネス、およびプロダクトビルディングを担う、BCG の専門家集団です。

BCG X は、BCG の産業や経営機能に対する深い専門知識を活用しつつ、高度な技術的知識と意欲的な起業家精神を結集して、企業の大規模なイノベーションの実現を支援します。80 を超える都市に約 3,000 人のテクノロジスト、データサイエンティスト、エンジニア、デザイナー、プロダクトマネジャー、アントレプレナーを擁し、世界で最も重要な課題と機会に対応するプラットフォームとソフトウェアを構築・設計しています。

私たちのエンドツーエンドのグローバルチームは、既存の産業・機能別プラクティスの枠を超え、クライアントと密接に連携しながら、新しい可能性を切り拓いていきます。私たちは、大胆でディスラプティブ(破壊的)な未来の製品、サービス、ビジネスをともに創り上げていきます。

■ 本件に関するお問い合わせ

ボストン コンサルティング グループ マーケティング 中崎・中林・河西

Tel: 03-6387-7000 / Fax: 03-6387-0333 / Mail: press.relations@bcg.com